

基本目標1 「安全・安心・支えあい」の暮らしやすいまち

分野別政策1 安心を築く危機管理・安全対策の推進

施策 No. 4 交通安全対策の推進

10年後のめざす姿 市民の交通安全への意識が高まり、交通ルールの遵守や交通マナーが向上するとともに、交通安全施設が整備されることにより、交通事故発生件数が減少し、交通事故のない安全・安心・快適に暮らせるまちとなっています。

住みよさ指標	当初	単位	実績値の推移					目標値(H37)	評価	
			H28	H29	H30	H31	H32			
1 「交通安全」に関する市民満足度	15.8	%	目標値	16.3	13.1			18.3	20.8	↘
			実績値	12.6						
2 交通事故発生件数	411	件	目標値	407	374			391	370	○
			実績値	378						

総合評価	住みよさ指標の状況
C	交通事故発生件数、高齢者関連交通事故発生件数は共に減少しており、春と秋の全国交通安全運動期間中に積極的に実施している講習会や啓発活動に一定の効果がみられる。一方で高齢ドライバーの事故増加が顕在化する中、「交通安全」に関する市民満足度は目標に反し減少している。
施策を構成する事業の状況	
河内長野警察署、河内長野交通安全自動車協会と協力し、交通事故防止のため、市内各幼稚園・保育園・小学校での交通安全教室や春・夏の全国交通安全運動期間中の意識啓発に努めた。全国交通安全運動期間中の意識啓発としては、駅前や商業施設周辺等で交通安全運動初日キャンペーン、街頭指導合同キャンペーンを実施し、交通ルール遵守やマナー向上の積極的な呼びかけを実施。	

これまでの取組み	河内長野警察署、河内長野交通安全自動車協会と協力し、交通事故防止のため、市内各幼稚園・保育園・小学校での交通安全教室や春・夏の全国交通安全運動期間中の意識啓発に努めた。春・夏の全国交通安全運動期間中の意識啓発としては、駅前や商業施設周辺等で交通安全運動初日キャンペーン、街頭指導合同キャンペーンを実施し、交通ルール遵守やマナー向上の積極的な呼びかけを実施。 また、最近では自転車の安全利用や高齢ドライバーの事故防止のため、街頭キャンペーンや講習の実施等の啓発にも力を入れている。
課題(めざす姿との差)	事故発生件数は減少しているものの、「交通安全」に関する市民満足度は依然として目標に到達していない。特に、近年、高齢化の進展に伴い、高齢者が関連する交通事故の増加が社会問題化していることから、高齢ドライバーの事故防止が喫緊の課題となっている。こうした中、免許返納に対する関心が高まっているが、一方で、マイカー普及により、自動車型のまちの構造が進んでおり、免許を返納すれば日常生活に不便が生じる可能性もあり、一概に免許返納の促進が即、問題解決には繋がらない。
今後の方向性	交通事故防止のためには、一人ひとりの交通安全意識やマナーの向上が重要であることから、河内長野警察署や関係者等と連携しながら、粘り強く交通安全啓発活動を実施していく。 また、高齢者が関連する交通事故の増加については、年齢を理由として一方的に免許返納を促すのではなく、安全な運転方法の指導機会の充実や、交通事故のリスクが高くなる夜間や雨天時の運転を控える等の呼びかけ等、啓発活動の内容や機会の充実を図っていく。